

教育に新聞を

毎週火曜掲載

実践

コラム

力試し

現場



うれしい誤算の続きです。

子どもが週1回、朝学習の時間に新聞を読んで関心のある記事を切り取り、要約や感想などを書くNIEタイムの効果は少しずつ見えてきました。

NIEタイムのスタートから、さかのぼること半年。校長として着任して間もないころ、休み時間に3人の5年生が校長室をのぞきにきました。ちょうど私が新聞を読んでいたときでした。

新校長に興味津々の子どもたちは私の一挙手一投足を観察していました。ふと視線を上げ、子どもたちと目が合うと、一目散に逃げよつとしました。私は、うれしい「来賓」を逃

すまいと、「どうぞ。いらつしやい」と声を掛けました。

恐る恐る入ってきた子どもたちは、すぐに人懐っこく学校の様子を語り始めました。相づちを打って聞いていると、「校長先生、今、何していたの?」と質問。「新聞を読んでいたよ」と答えを返すと、「面白いの?」「読んだことないよ」と子ども。「じゃあ見てごらん」と、新聞を開いて子どもたちに見せたところ、想像もつかない言葉が返ってきました。

子どもたちは口をそろえたように、「わっ、気持ち悪い!」とつぶやいたので

しばらくは声も出ませんでした。気を取り直して、「どうして気持ち悪いの?」と聞くと、口々に「いっぱい字が並んでいるのを見ただけで、気分が悪くなる」「読みたいなんて思えない」

せきぐち・しゅうじさん

1955年東京生まれ。東京学芸大を卒業後、東京都公立小学校教員として勤務。その間(91~2007年)、群馬大学教育学部非常勤講師。北区滝野川小など3校で校長を務め、16年4月から現職。

「気持ち悪い」が面白いに



イラスト 山田美也子

と答えました。

校長として学校組織でNIEに取り組みたいと思っ

てはいましたが、子どもの実態を無視して学校の研究を進めるわけにはいきません。しかし、この言葉で踏み切りがつかしました。「NIEをやろう。やらねばならない」と。

それから1年後。NIEタイムが定着して半年後。

その時以来、少しずつメンバーを変えて校長室への訪問を繰り返す来賓に、あることを試みました。文字の

並ぶ紙面を見せたのです。果たして子どもたちの反応は…。

「どれ、どれ?」「どこに面白い記事があるの?」と、新聞を囲むように頭を寄せて、勝手にしゃべり始めました。

「これだ。これこそNIEの成果だ」と、一人にのみ。

うれしい誤算は、まだまだ続きます。
(日本新聞協会NIEコーナーライター 関口修司)
|| 次回は9月3日掲載 ||